

愛と勇気とお墓じまい

この頃お客様からお墓をかたづけるご相談が増えてきました。
ご家族の事情によって、お墓をこのまま維持していくことが難しいと悩んでいる方も多いでしょう。
ご家族やご親戚、ご先祖への思い。将来のための配慮。
そこには今までのご縁を大切にしながらも、これからのための決断する勇気があります。
大切にしたいのは、

今行うべきなのか、
自分がすべきなのか、
他のやり方はどうだろうか。

ご家族の状況は様々です。長年親しんできたお墓をかたづけるのは、大切な決断です。
御遺骨の納める先、寺院とのお話や霊園手続き、費用、事例の紹介など、ご検討することがありますが。当社ではたくさんの施工例があります。

ご相談はお気軽に
お見積は無料です

フリーダイヤル 0120-75-1483
mail:info@banchi.jp

堤町の展示場の緑



20代後半の私は、なるべく商品をたくさん置き、お墓をアピールしようと意気込んでいました。マーケティング、集客する方法、効果的な宣伝など、本で読んだり、営業の講演を聞いて意気込んでいました。確かに効果がありました。ただ心の一角の違和感が残っていました。営業手法を追求すればするほど、お墓を商品として扱う気持ちになります。

母が亡くなって4ヶ月が経ちました。母はもともと茨城県の農家の出身でした。土いじりが好きで、自分の部屋のベランダに植木鉢を置いて、だんだんとショールームにも君子蘭などを沢山置くようになりました。あんまり多くて、墓石屋なのか花屋なのかわからないと怒ったこともありました。それでも母は、外の展示場の花壇にもいろんな花や木を植え、手入れに励んでいました。



ノウゼンカズラ

たまたま私が、展示場の花壇の雑草（昭和天皇は雑草という草はない、みな名前がありそれぞれの役目を果たしていると言ったそうですが）をとっていて、木の堀にずっと絡みついている蔦をどっさり剥ぎ取ってしまったら、「私が植えた、ノウゼンカズラだよ」と叱られました。20年位前に母が展示場の一番奥の隅っこに植えたノウゼンカズラ。展示場の一番前まで20mも伸びてしまったのでした。



リンゴ

国道側の赤い彫刻-鈴木正治氏の作品—ウゴカズの後ろに、一本のりんごの木があります。母が、1.5mくらいの木を植えたのですが、20年以上経って、今や高さ6m！小さいですがりんごの実もなります。肥料も手入れもしないので、大きなサクランボ位の可愛いサイズ。酸っぱくてほろ苦い味。りんごの原種はこんな感じなのでしょう。昨今の糖度重視の甘い果物の世界と全然ちがう味。これがいいと毎年もらいに来る人もいます。

目立つ看板、たくさんのお墓、わかりやすい商品説明、など売るための仕掛けはいろいろあります。しかし実際にお墓が建つと、草、葉、虫、鳥などいろんな自然の関わりがでてきます。当然、草が生え、虫の巣ができ、落ち葉がたまり、いろんな汚れが付きます。

当然に掃除の手間もかかります。それでも、自然の姿、日差し、雨風、雪の中で、お墓が建ち続ける姿を感じることができます。きれいな展示場と違った自然の姿の展示場。

わたしも、緑を備えて良かったと感じる年になりました。

心やすらぐ祈りの場